

事業所名

児童デイサービスまきび

支援プログラム（児童発達支援・放課後等デイサービス）

作成日

令和7年

3月

5日

法人（事業所）理念	地域を愛する特定非営利法人のぞみは、「ひとりひとりの豊かな生活の実現」を目指します。									
支援方針	(1) 日常生活の中で、できることの範囲を広げていく (2) 様々な体験・経験を行うことで概念を広げていく (3) 児童理解に努めた上で支援を行う									
営業時間	9時	30分	から	18時	30分	まで	送迎実施の有無	あり	なし	※要相談
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のスケジュールを用いながら、見通しを持って活動や行動ができるように支援する。 ・声かけや視覚的教示を用いながら、手洗い、食事、排泄、身だしなみ等のルールを確認し、自発的な行動を促していく。 ・課題の場、遊びの場等の空間を仕切ったり、個々の特性に配慮した空間を作ったりして、利用児童が「どこで」「何ができるか」分かりやすいようにする。 ・来所時の検温や保護者とのやりとり、利用児とのやりとりを通して健康状態を把握する。 ・体調が悪い時などに職員に伝えられるように、体調を振り返ることを意識付けたり、コミュニケーションをとったりできるようにする。 								
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・個別課題や集団活動、帰りの会などイスに座る場面で正しい姿勢で取り組めるよう習慣づけていく。 ・跳ぶ、投げる、叩く、持ち運ぶなどの基本的な動作やトランポリンやバランスボールなど体幹を鍛える遊びを中心に、筋力の維持、増進を目指す。 ・周辺の公園等で走ったり、遊具を使って遊んだりして運動の機会を設ける。 ・視覚、聴覚、触覚の感覚を用いた制作活動や遊びを行う。 ・目と手の協応の課題に取り組んだり、粘土遊び、氷を使った遊びなどをしたりして、感覚で楽しめる活動を行う。 								
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達段階、特性に応じて五感を活用した課題を設定する。 ・色や形のマッチングやプットイン、センサーマットなど感覚を生かした教材を提供する。 ・説明時、手順書など絵カードや写真、動画などを用いて、言葉だけではなく目で見て分かる視覚的教示を行う。 ・具体物を用いながら「大きい、小さい」「多い、少ない」「長い、短い」などの概念が習得できるようにする。 ・タイマーや時計を用いながら、活動の始まりや終わりを伝え、時間への意識につなげられるようにする。 ・利用児の認知のゆがみ（本人は正しいと思っているが、世間ではとがめられるような行動）を少しずつ適切な行動へと促していく。 ・利用児童の思考の整理や行動の振り返りを行い、「どうしてこうなったのか」「どうすればいいのか」を一緒に考え、適切な行動へと促す。 ・一人ひとりの特性に応じて、部屋の環境改善を行う。 ・視覚刺激を極力少なくしたり、落ち着けるよう個別に過ごせるスペースを作ったりして、安心して過ごせる空間を作る。 								
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や絵カードでのやりとりで、適切な要求の方法を身に付けていく。 ・利用児童の興味のあるものを中心に言語習得の機会を設ける。 ・音楽をつかった活動、読み聞かせ等を通して、言語に触れ、表出できるような環境を整える。 ・コミュニケーションを図りたいと思えるように、利用児童との信頼関係を構築する。 ・職員だけでなく、利用児童同士で会話ややりとりを行うことで、「どうすれば相手にうまく伝わるか」を考えながら言語化する機会を設ける。 ・適宜、職員が仲介に入るなどして、適切なコミュニケーションの方法を身に付けられるようにする。 								
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・会話をしたり、協力したりする小集団活動や集団活動、遊びを通して身近な人とふれあい、信頼関係が築けるようにする。 ・本人の体調や心の動きなどに配慮し、活動を調整したり落ち着いて過ごせる空間を作ったりする。 ・職員が架け橋になりながら、友だちとの交流が楽しいと思えるように、職員自身も活動を楽しんで安心できるようにする。 								
家族支援	保護者からの相談を随時受け付けている。発達や成長に伴い、関わり方や支援方法を保護者とともに模索していく。					移行支援	それぞれの習得レベルに応じて、次のステージへの移行を意識した支援を行う。基本的生活の定着や意思の表出、就労に向けた作業を意識した活動等			
地域支援・地域連携	学校や関係する事業所と情報共有や連携を行う。ケース会議へ参加する。所在地の社会福祉協議会、自立支援協議会に参加する。					職員の質の向上	定期的に検討会を行うことで、支援の振り返りを行う。必要に応じて戸外やオンラインでの研修も取り入れる。			
主な行事等	季節行事、セラピー犬との交流、クッキング、地域行事への参加									